

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和5年7月25日（火） 11時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 令和6年度に実施する三重県教員採用試験の早期化について
- ・ 「未来のスペシャリスト育成プログラム」を実施します
- ・ 令和5年度いじめ防止動画コンテストを開催します

質疑事項

- ・ 令和6年度に実施する三重県教員採用試験の早期化について
- ・ 「未来のスペシャリスト育成プログラム」を実施します
- ・ 令和5年度いじめ防止動画コンテストを開催します
- ・ 津市ヨットハーバーでの中学生の死亡事故について
- ・ 津市の女兒虐待死について

発表項目

○ 令和6年度に実施する三重県教員採用試験の早期化について

三重県教育委員会では、令和6年度に実施します、令和7年度三重県公立学校教員採用選考試験の第1次選考試験の日程を、これまでより約1か月早めて実施することにいたしました。これまでの実施日程は7月中旬で、本年度も一昨日実施したところですが、来年度はこれを約1か月早めまして、6月15日土曜日に実施することといたします。これによりまして、その後の日程も1か月前倒しとなりまして、第2次選考試験は7月中、最終の合格発表は8月中となる予定です。なお、このことは先日、文部科学省から各都道府県教委宛に、来年度実施の教員採用選考の第1次試験の実施日程を、6月16日を一つの目安としてできるだけ前倒しすることを積極的に検討するよう依頼があったことに対応しているものです。文部科学省の示した標準日は6月16日の日曜日でしたけれども、この日を試験日といたしますと、予備日が翌週となってしまいまして、学生の教育実習の期間と試験日が重なる恐れも出てまいりますので、予備日も含めて、土日で1次試験を完結することができるように、6月15日土曜日を試験日といたしました。

○ 「未来のスペシャリスト育成プログラム」を実施します

このたび、職業学科で学ぶ高校生を対象に、未来のスペシャリスト育成プログラムを三重大学と共催で実施いたします。資料の1のところをご覧ください。未来のスペシャリスト育成プログラムは、職業学科で学ぶ高校生を対象とした夏季休業中の2日間の集中講座です。

県内の特色ある企業や大学を訪問いたしまして、先端技術の見学や体験、企業経営者や大学教員からの講演、企業で働く人々や他校生徒の意見交換などを実施いたします。これにより、高校生が働くことの意義や喜び、学び続けることの大切さについて考えるとともに、地域の企業の魅力を知り、高い志や専門性を身に付ける機会となることを目指します。2の日時・訪問先ですけれども、8月21日、22日に辻製油株式会社と三重大学を訪れての実施となります。3の参加生徒のところですが、県立高校9校の職業学科に在籍する生徒22名です。この生徒たちは募集により決定しています。また、このほかに、三重大学の学生がチューターとして参加します。なお、参加生徒を職業学科に限定しているのは、このプログラムでは、普段はそれぞれの専門分野の知識・技能を伸ばすことに専念している職業学科の生徒たちに、学科の枠を超えて学び合い、意見交換することで、多様な考えを知って、自らの知見を広めて欲しいということを重要なポイントに据えているためです。4の実施内容ですけれども、主なところだけ申し上げますと、1日目は午前中が辻製油株式会社の見学、午後は三重大学において、桑名市のエイベックス株式会社のオンライン見学、そしてグループディスカッションです。2日目は三重大学におきまして、株式会社プロジェクトMの経営者による講演、ドローン、VR、3Dプリンターの操作体験、それからグループディスカッションを実施することとしています。

○ 令和5年度いじめ防止動画コンテストを開催します

県教育委員会ではいじめを許さず、相手を思いやる心や、個性を認め尊重する態度、SNS等による誹謗・中傷やいじめを行わない態度を育むことを目的に、11月のいじめ防止強化月間に合わせて、「令和5年度いじめ防止動画コンテスト」を開催することとしています。資料1の実施内容のところにありますように、このコンテストは、まず県内の小中・高等学校・特別支援学校に対しまして、いじめ防止をテーマとした動画を作成する学校を募集するところから始まります。次に②として、応募した学校の児童生徒を対象に、いじめ防止に係る事前学習会を実施しまして、その後、③として作成された動画を「STOP!いじめ」ポータルサイトに掲載し、広く一般の方から各校種の優秀作品を投票で募ることになります。今年度は、現在、既に①の学校の募集は終わっておりまして、これから②の事前学習会の段階に入ろうとしているところです。そこで資料2のいじめ防止動画コンテストに参加する児童生徒の事前学習会のところをご覧くださいますと、この事前学習会では、動画コンテストに応募した学校の児童生徒の代表が、いじめ防止に係る研修を受け、グループに分かれて「いじめが起きたときに何ができるのか」などについて、意見交流を行います。具体的には、8月2日水曜日、ホンダアクティブランドに、コンテストに応募した小学校3校、中学校4校、高等学校12校の計19校の代表が集います。情報モラル授業、いじめ防止授業の後、意見交流という形で進める予定で、いじめ防止授業と意見交流会には、ご覧のとおり、ラグビーチーム「三重ホンダヒート」の選手の皆さんにご協力いただくこととなっています。今後は、9月15日までに各校で動画を作成いただきまして、10月に「STOP!いじめ」ポ

タルサイトに掲載します。そして、三重県いじめ防止強化月間の11月に県民投票を行いまして、優秀作品を表彰します。優秀作品は全ての応募作品のうち上位3作品と、小中高それぞれから1作品を選定する予定です。また、優秀作品につきましては、来年4月のいじめ防止強化月間のイベントなどで上映するなどして、広く発信しまして、社会総がかりでのいじめ防止の機運醸成につなげたいと考えています。この取組、実は去年から実施しておりまして、イメージを持っていただくために、昨年度の最優秀作品に選ばれた動画を見ていただこうと思います。

(生徒指導課)

お手元の資料のQRコードを読んでいただくとこちらの「STOP!いじめ」ポータルサイトに繋がるようになっております。こちらの方で昨年度の作品を紹介させていただいております。それでは、昨年度の最優秀作品である名張市立北中学校の作品をご覧ください。

(動画視聴)

発表項目に関する質疑

○ 令和6年度に実施する三重県教員採用試験の早期化について

(質) まずは採用試験の前倒しですけれども、日曜日を予備日として土曜にやるというのは、土曜の次に日曜日があるのは、全国同じだと思うのです。そんな中で国は16日と言ってきて15日を選んだというのは、三重県として何か特徴的なことはあるのですかね。

(答) そういうことを意識したわけではなく、やはり15日にした方が、例えば台風が来た時に翌日にできますので、そういうことを考えてです。

(質) 全国の状況はどうなっているのでしょうか。何か聞き取ったことはありますか。

(答 教職員課) まちまちで、把握はしていません。

(質) 今日の資料の中でも、教育委員会のものがありますけれども、受験生の増減とかというのがありますけれども、やっぱりこの前倒しによって受験生の増減というのはどういふような影響があると考えていらっしゃるか、お答えできますか。

(答) 民間がどんどん決定が早くなっていく中で、公務員関係は基本的に遅かったと思っていますので、7月から6月に1か月前倒しすることによって、少しでも挽回できるかなとは思っています。どの程度効果があるかはやってみないとわかりませんが、我々としても手は打っていかないといけないということで、これに関しては実施させていただきました。

(質) 恐らく国の方で、基準日というところで示していらっしゃるのですが、1か月という目途にはなると思うのですけれども、1か月というのは現場感も含めて、前倒しの期間としていかがですか。本当はもっと前倒ししたいけれども、示されてしまっているのかこの期間にしたのか、それともこんなものだというふうにお感じなのか。

(答) 実際1か月前倒しするだけでも、いろんな試験の作成とか日程とかで調整がいつて、なかなか大変なところがあるものですから、これ以上に日程を前倒しというのは、そこ

までは検討しませんでした。今後いろんな状況を見て、また考えないといけない時期も来るかもしれませんけれども、今はこれが精一杯のところかなと思います。

(質) 教員採用試験って、6月に前倒して、6月に実施するのはこれまで初めてになるのですか。

(答) そうです。

○ 「未来のスペシャリスト育成プログラム」を実施します

(質) 育成プログラムの関係ですけれども、これ何年目でしたか。2年目になるのですか。

(答) これは初めてです。

(質) 教育長としてこの開催の意義、ねらい、民間で見学したり、体験した子どもたちに、どういうふうな思いを持ってほしいかというところをお願いします。

(答) 先ほども申し上げたのですが、普段はそれぞれの専門分野を学習している生徒たちが、いろんな分野の、先端技術とか先進的な企業の皆さんの話を聞くとか、そういうものに触れることで、新たな横断的な知識を得て、未来に生かしていくことができる、そういうふうになることが、一層、意義深いのではないかと思っています。

(質) この3社が選ばれた理由とか思いですとか、これをとおして三重県で働くことにも何かつながるのか、思いがありましたら教えてください。

(答) まず新しい分野に挑戦している企業とか、新たな社会の変化に対応するサービスを提供している企業とか、そういう躍進している企業の見学なり、話を聞いていただきたいということがあって、しかも分野もばらけるように、農業だったり食品だったりITだったり、自動車だったり、いろいろなことを考えて、この3つの企業を選んでおります。

(質) こういった専門分野を学ぶ教育というのは、全国と比べてというのはあれですけれども、三重県は先進的に進めているのか、こういった時代の流れなのか、教えていただければ。

(答) 職業学科というのはどこの県でも作っていて、工業高校とか商業高校とか農業高校とか、そういうものを指しますので、三重県では24校職業学科がございます。全日制22校、定時制3校で、四日市工業が両方ありますので、そういう数になっているのですが、全国と比較してこれが多いとか少ないとかそんな情報ありますか。

(答 高校教育課) 全国の職業学科の占める割合としては、普通科・職業学科とある中では、三重県は生徒数について、職業学科が占める割合は全国に比べて多くなっています。取組としても、全国で先駆けているかわかりませんが、特徴的で先進的な取組はしっかりさせていただいております。

○ 令和5年度いじめ防止動画コンテストを開催します

(質) 募集の時には、発表されましたか。

(答) していません。

- (質) スタートする時に発表しなかった理由というのは、特に、あれですか。というのも、申し訳ないが、この中途半端なタイミングで、この2つ目の段階で発表されると、じゃあどう紹介すればいいかと。
- (答) まずは、事前学習会の取材をしていただければという思いがまずあって、今回このタイミングで発表ということになりました。
- (質) 事前学習会の周知というところが中心。
- (答) 中心というか、基本的には動画コンテストのことを皆さんに知っていただきたいのですけれども、今回このタイミングでお話させていただいたのは、この8月にある動画コンテストの前がいいのかなというのがあったことは事実です。
- (質) コンテスト自体は去年からやっているのですね、今年もやりますというふうに、その時は細かいタイミングが決まっていなくても、今年もやりますというふうに周知していただくことで、またその事前学習会が必要なら、その時にまた改めて発表いただいたらという気がしておりましたのが1点と。
- (答) はい。
- (質) あとは例えばですけど、サイトに動画を掲載しましたというタイミングであったりとか、どこの学校が入賞しました、選ばれましたという、あとはそんなタイミングなのかなど。県民投票もあるということですからね。ちょっとこのタイミングというのが。その上で、お尋ねするのですけど、去年は何校が参加した。
- (答 生徒指導課) 昨年度は12校の参加です。
- (質) 去年は12校で、動画は12ということですか。
- (答 生徒指導課) 動画は、17作品。12校で17作品。
- (質) 今年は19校で。
- (答) それぞれ1作品ということにしています。
- (質) それぞれ1作品ということにしたのですか。
- (答) そうですね、はい。
- (質) 19校で19作品を、今制作しているのですか。
- (答) 9月15日までに作っていただくということです。
- (質) これから作るということですね。
- (答) はい。
- (質) 取組の概要とかも去年と一緒になのですか。県民投票をして、ポータルサイトに掲載して。
- (答) その辺は一緒ですね。
- (質) 参加している学校、クラスというのは、何か動画の編集とかに、カリキュラムで学んでいる生徒さんであったり、傾向のような、特徴のようなものがあるのでしょうか。
- (答 生徒指導課) 児童会とか生徒会とか、あと部活の中でとかという形で、募ってやっていると思います。

(質) そういう意味ではクラスというよりは、校内での活動単位でやってもらっているということですね。

(答 生徒指導課) そうですね。

(質) 30人ちょっと、40人ぐらい来るだけですけど、会場は大ホールでやるのですか。

(答 生徒指導課) ホンダの方の協力も得まして。

(質) 会議室みたいところでグループディスカッションをすとか、意見交換なのですよね。

(答 生徒指導課) そのあとで、ホンダヒートさんとのいじめ防止の授業もありますので、その中で身体を使ってしていただく授業もありますので、そういった会場となっています。

その他の項目に関する質疑

○ 津市ヨットハーバーでの中学生の死亡事故について

(質) 先週 21 日の話になりますけれども、津市のヨットハーバー、海岸の方で、松阪の中学生が溺れて亡くなられたという事故がございました。中学なので、直接は市教育委員会かなと、学校かなと思いますけれども、教育委員会として、また教育長として、どのように今回の事案を受けとめられておられるか。あとは、各市町の教育委員会に対して、何かこう再発防止の呼びかけであったりとか、県教委として再発防止に取り組まれることがあれば。

(答) 子どもの命がこういう形で失われてしまったということに関しては胸が塞がる思いがしています。特に 6 月 25 日には四日市の川で、やはり中学校 1 年生の生徒が命を落としたということがございましたので、今回 2 件目ということになりますので、何としても、地域の関係機関ともしっかり連携して、子どもの安全の確保に、しっかり社会全体で取り組んでいかなければならないと思っております。6 月に水難事故がございましたので、7 月のすべての教育長が集まっている会議の中でも、しっかりお願いもさせていただきまして、夏休み前には文部科学省からの通知ですとか、県教委独自でも通知させていただいていて、そういう中、夏休みの初日にこういった事件が起こってしまったことは非常に残念だと思っております。今の事件を受けてさらにということは今のところは考えていませんけれども、夏休み前にしっかり周知したとおり、関係機関と連携して、今後、まだ夏休みは長いですので、子どもの安全確保に、全力を尽くしていただければと思っているところでございます。

(質) 教育長会議の方でもお願いをしたと。

(答) そうです。

(質) そうということがあったということですね。これ、いつの段階ですか。

(答) 7 月 5 日ですね。市町教育長会議。

(質) そのお願いをしたというのは、どのようなお願いをしたかもう少し詳しく。

(答) 私の口から、全市町に向けていくつかお願いする中の最後の項目として、6月にこういう事故がありましたので、しっかりと安全確保に努めて欲しいということで申し上げます。

(質) 安全確認。

(答) 確保。

(質) 安全確保に努めて欲しいという。今回の事案の経緯であったりとか原因であったりとかというような情報は、教育委員会の方にも入ってきているのですか。

(答) 報道レベルで伺っている程度の情報しか聞いておりません。高校生と中学生が遊びに来ていて3名がちょっと深いところに行って、それで波にさらわれたという情報ですね。

(質) ヨットハーバーの現場の海岸の安全性とか、遊泳とかについては、今回、松阪のお子さんですけど、津市内の子たちも利用することがあるかもしれませんが、どのように捉えていたりとか、この近辺の、例えばヨットハーバー近くの小中学校ではあそこの海岸についてはどのような指導をしたり、しているかという情報は入っていますか。

(答) そういう個別の部所の安全確認みたいなところは、なかなか行き届いてないかもしれませんね。

(質) 今回これが起こったからこそ、こういうふうになくなってしまいうけれども、語るわけですけど、私からすると、どちらかという海水浴というのは御殿場で泳ぐイメージがありますね。

(答) そうですね。

(質) なぜこのヨットハーバーに行かれたのか。松阪の子たちがヨットハーバーの方に行かれたのか。もちろん、遊泳禁止ではありませんし、あの辺りもね、レジャーシーズンだと人で混雑して、皆さん楽しんでおられるわけだけでも、なぜそちらの方へ、子どもさんらで行かれたのかというような経緯。あと、安全の呼びかけとかも届いていたのかというところは、これからどうしていかれるのかなというのは、そこら辺はもう基本的には市の教育委員会の方にあるということなのでしょう。

(答) そういう課題の投げかけを今受けて、我々もちょっと考えるところもございまして、少し検討してみたいと思います。

○ 津市の女兒虐待死について

(質) 久居の女兒の虐待事件をめぐって、教育長も検討会議メンバーでいらっしゃると思いますが、今回は園児ですが、教育委員会で管轄しているところでの要保護児童、又は不登校の児童、学校に行っていない、通えていないというところの生徒に対して、学校が何かこう働きかけるように通知を出したりとか、また今後何かこう、行動を取るというような考えもありますか。

(答) 今回の事案は我々もしっかり他山の石としていかなければならないと思っております。

すので、今後につなげていきたいと思っています。そんな中で、しっかりと情報、目視とか、この間対面での安全確認とか話も出ていまして、子ども・福祉部から通知があるはずですので、それを受けて、我々として何か追加するかどうか検討しながらしっかりと周知していきたいと思っています。それから要保護児童対策地域協議会ですかね、そういった場でしっかりと情報共有を積極的にするように呼びかけなんかもしていかなければならないと思っています。追って通知しますというふうに我々受けていますので、まず通知を受けて、しっかりと学校への通知は我々も考えていきたいと思っています。

(質) いつごろ、子ども・福祉部からこの通知が来るという。

(答) 我々も分からないのですが、聞いていますか。

(答 生徒指導課) 聞いていないので、また確認をとってみます。

(答) いずれにしても学校が一番そういう情報が把握しやすい場所だという認識はありますので、しっかりと貢献していきたいと思います。

以上、11時28分終了